

参考資料 6. 口蹄疫とは

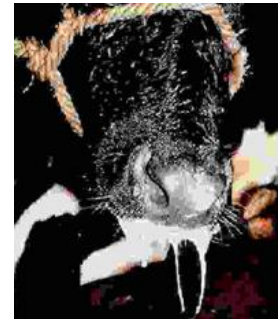
1 原因（病原体）

口蹄疫ウイルス

（Picornaviridae Aphthovirus）

2 感受性動物

牛、めん羊、山羊、豚、水牛、鹿、いのしし等



【多量のよだれ】

3 症状

突然 40～41℃の発熱、元気消失に陥ると同時に多量のよだれがみられ、口、蹄、乳頭等に水疱（水ぶくれ）が形成され、足をひきずる症状がみられる。

4 発生状況

（1）国内：

明治 41 年（1908 年）東京、神奈川、兵庫、新潟 522 頭

平成 12 年（2000 年）宮崎（3～4 月：3 戸）、北海道（5 月：1 戸）

患畜・疑似患畜 740 頭 [92 年ぶりの発生]

平成 22 年（2010 年）宮崎（292 例）患畜・疑似患畜 210,714 頭 [10 年ぶりの発生]

※日本は平成 23 年 2 月 4 日に清浄国に復帰。

（2）海外：オセアニアや北米以外の世界中で発生がみられる。

5 診断

（1）臨床症状の確認とともに、遺伝子または抗体の検出を行う。

（2）水疱材料等からのウイルス分離を行う。

6 予防法

我が国では、多くの諸外国と同様に、原則として感染動物の摘発ととう汰による清浄化を実施。また、緊急接種用の不活化ワクチンの備蓄、水際での厳重な検疫を実施。

なお、本病の常在国等では不活化ワクチンが使用されている。しかし、ワクチン接種動物は、①感染を完全に防御できず、②感染動物はワクチン接種動物との判別が難しいことから、本病を見逃し、感染源となる可能性がある。

7 治療法、対策

（1）治療は行わない。

（2）発生した場合は、家畜伝染病予防法に基づき、まん延防止のため家畜所有者によると殺が義務づけられている。